

視察研修報告書

令和6年7月2日（火）7月3日（水）に文教厚生常任委員会視察研修のため、東京都板橋区役所・神奈川県川崎市川崎区こども総合療育センター大島保育園への視察研修に参加しましたので、その内容について下記のとおり報告いたします

令和6年7月18日

職名 文教厚生常任委員会
氏名 久我 純治

報告内容

東京都板橋区役所

- (1) 人口が57万人で粕屋町の11倍で行政の大きさが違いすぎる
- (2) 児童相談所設置の経緯では
平成13年板橋区こども家庭支援センターを開設から23年かけて令和4年7月より板橋区を児童相談所設置市に指定する政令が公布12月1日に建設工事施工し令和4年、板橋区子ども家庭総合支援センター開設4月1日から板橋区において児童相談所業務を開始
大きな計画は23年もの時を経て達成されたたまものだと思う
- (3) 公立保育所も8割が築40年を過ぎている、民間の保育所数は公立の5倍あり児童数も全体人数の74パーセントと大きい
- (4) 公立保育所の改築・改修については
全ての公立保育所を民営化・統合・閉園・するのでなく今後検討・整理し公立保育所の役割に応じて、一部の公立保育所の長寿命化改修・改築を行い継続していく
- (5) 公立保育所の民営化については
公立保育所の民営化ガイドラインにより民営化園移行にむけた、手続きを進めて、原則民間移管実施3年前に個別計画を策定し具体的なスケジュールを公表するとなっている。現代9ヶ所の公立保育所が対象になっているとのこと

川崎区保育子育て総合支援センター、大島保育園

- (1) 川崎市は人口が157万人で市政では福岡市につぐ大きい市で市政100年を迎えたばかりです。明治以降臨海部京浜工業地帯が形成されています
- (2) 建物4階で1・2階が大島保育園で3階総合支援センター大島・総合事務所・4階は屋上庭園で土地活用も上手い、2階の会議室もととのついで、公立・私立保育所の話し合い場所あり行政、公立、私立、3者の交流の場になっている。看護師がいて嘱託医がいて病児に対応も万全に思えた

(3) 川崎市には子供事務局があり川崎市「保育の質のガイドブック」で「子供たちの笑顔があふれるまち・かわさき」を目指している

(4) 子どもの権利条例（平成 12 年 12 月 21 日）

第一章から第 8 章までになり

前文に子どもはそれぞれが一人の人間である、子どもはかけがいのない価値と尊厳を持っており、個性や他の者の違いが認められ、自分が自分あることを大切にされたいと願っている。子どもは子どもの権利が保障されるためには、ほかの人の権利がたいせつにされなければならない、お互いに尊重しあうことが大切です

川崎市は子どもの権利の保障をすすめます、とあり抜群ですが川崎市が子どもの権利をいかに大切にしているかが分かります

(5) 子供たちの登園にたいして自動車でなく 20 分から 40 分かけ自転車でするそうです

敷地内には来賓用としての 2・3 台分の駐車場のスペースだけでした

粕屋町では考えられないことでした

(6) 粕屋町は市制に向けて進めています・大きな行政と小さな行政との格差をまざまざとみせつけられたおもいでした

視察後の思い

保育士問題は大都会も小さな町でも保育士不足が共通でありました。

何か始めるには資金繰りが一番大切なことだと思います。

子供たちのことを考えるなら、官・民・地域が一体となり取り組まなければならない。

視察先が極端に行政の大きすぎると、色々な勉強にはなるがはたして粕屋町にもどり、そのまま出来るかは難しいと思われます。

粕屋町にあったやりかたで工夫し官・民・地域が一体となり粕屋の子供たちの将来ために、今出来ることから頑張ります。

蛇足

日の丸制定の由来が 1864 年第 11 代薩摩藩主島津斉彬公による西洋烈強から国を守るため、薩摩藩は独自に洋式軍艦「昇平丸」を建造し幕府に献上した、その時船印が日の丸で当時の幕府に斉彬公が日の丸を日本の国旗にしてはと提案したそうです

日の丸を総船印に採用され、そののち明治政府に引き継がれて日本の国旗になったそうです

視察先に向かう飛行機の中で、初めて知った、私にとって大きな出来事でした